

「学ぶ力」		
実態	成果	課題
実態	<p>◇全国学力・学習状況調査の結果から、全国平均、あるいはそれ以上の点数を出していることがわかる。そこから本校の取組、「『自ら学ぶ方法』を身に付ける」については多くの生徒が実践できていると考えることができる。また、ある程度「粘り強く挑戦する意欲を高める」ことができているからこそ、一定の結果が出ていると判断できる。また、『学習や生活状況の結果』からいじめは、どんな理由があってもいけないことだと考える生徒が多く、本校の生徒会部が力を入れている取組の効果が強いと考えられる。</p>	<p>◇今回の全国学力学習状況調査のアンケート結果からは肯定的な回答をする生徒の割合が、全国平均と比較すると少なかった。ここから自己肯定感や自己有用感等が低い生徒が多いのではないかと判断できる。授業における見通しをもてなかったり他者と学びあう方法が身に付いていなかったりすることが大きな課題と考えられるため、どの教科でも話し合いの活動を積極的に取り入れるなど、現状を打開する取組を行う必要があると感じる。札幌市の「学習などについてのアンケート」では上記に関わるような項目が改善傾向にあったため、3年間を通して取り組めるとなお良いのではないかと考える。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題		
<p>◇全国学力・学習状況調査の結果と札幌市の「学習などについてのアンケート」との比較から、自分にはよいところがあると感じている生徒や、他者の良いところを認め自分に生かすことができる生徒の割合が良い方向に変容していると考えられる。このことから、相互承認をする感度が高まってきていると推察される。日頃の授業で他者の考えを聞いたり、協力して課題を考えたりする力が大切だと考えられるので、自分から他者の考えを「みたい」「知りたい」という意欲を育む活動を充実させる。</p>		
「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力		
自ら課題を設定し、主体的に学びに向かう力		
取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	<p>(1) 授業における学習課題の明確化と言語活動の充実 →個々の生徒が見通しをもって取り組むことができる学習課題</p> <p>(2) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 →粘り強く挑戦する意欲を高める</p> <p>(3) 「自ら学ぶ方法」と「他者と学ぶ合う方法」を身に付ける</p> <p>(4) 自ら学びを振り返る場面の設定（リフレクション）</p> <p>(5) 学習意欲の向上につながる学習評価</p>	<p>①自治的な活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの意思を実現する ・自分たちの問題を自分たちで解決する ・自分たちの行動に責任をもつ <p>②「自分が大切にされている」と実感できる学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域と連携し、子どもの思いや願いを受け止める
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について		

◇「視覚化」のための活用

→ 文字で見るとよりも動画や図などを活用すると効果的な場合がある。その際に、ICTによる様々なアプリ等を利用すると、学習にも良いと考えた。

◇生成 AI の活用

→ 学ぶ力の育成を考えるために短時間で文章や画像を生み出すことができる生成 AI は直接的にも間接的にも育成の充実を図る要素につながると考えられる。

◇保存ツールとしての使い方

→ 紙物など物理的なものを整理整頓することが苦手でもデータであれば管理をしやすい生徒もいると考えられる。自分の学習をきちんと記録し、顧みることに繋がる。

<本プログラムの実行に向けて>

